

研究・研修報告書



2022年 10月 18日

小牧市議会議長 様

会派名 無会派 諸岡英実  
代表者氏名 諸岡 英実

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

全国の市長、特別区長、議員、研究者ほか（概ね2,000人規模）

2 日程

令和4年10月13日（木）～令和4年10月14日（金）

3 研究・研修名

全国都市問題会議

4 主催者

全国市長会

公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所

公益財団法人日本都市センター

長崎市

5 会場

出島メッセ長崎

6 受講の目的

小牧市がまちの資源を再認識し、その個性を活かして『選ばれるまち』  
になるための施策について学ぶため

7 主な内容

個性を活かして『選ばれる』まちづくり  
～何度も訪れたい場所になるために～

8 所感・提言・課題等

ネットワーク型コンパクトシティ長崎モデルについて学ぶ。暮らしに  
必要な機能があること、利便性の高い公共交通などがまちの資源。長崎市

は空き地がないからパズルのように建物を移動しないと作れないため、同時並行的に都市開発が進んでいるという考え方は地域の特性と感じた。

海の玄関、陸の玄関、スタジアムシティ、街中（母屋）とエリアを四つに分けた港町ならではのまちづくりは情緒豊か。すべてが長崎サイズで、人との距離がちょうどいいのも地域の特性である。

コロナ禍で地域の祭りが中止された後、祭りの歴史文化をどのように継承するかというところで、継承ながさき大くんち展全踊り長がメッセ長崎に大集合したという所は、場の提供を自治体が行う事の重要性について実感した。『異国の船をここに招きて自由なる町をひらきぬ歴史と詩情のまち長崎世界のナガサキ』古賀十二郎記念碑の詩を市長が大切にしているのも、交流をベースにしてきたまちづくりを進めてきた長崎ならではのあり、小牧市はどのようなテーマをベースにまちづくりを今後進めていけばよいか、ヒントがあった。21世紀の交流都市は国内の客だけでなく、海外の観光客も重要であり、国内向けには学術都市としても育っていこうとする姿が見られた。本市は市内から学校が減る傾向にあるため、文化の香り高いまちを維持する為には学術都市のヒントも得ねばならない。

「観光」は観光業者のためのものではなく、地域の産業であり、市民にとっても重要なものであり、今後のまちづくりに欠かせない要素となることについて示唆があった。個性を強みにすること。国の面積の小ささを個性と捉え—とするか+と捉えるかは、まちの考え方次第であるということも伝えられ、納得した。長崎市には金がないが、歴史的な文化が香る町であり、「さるく（ぶらぶら歩く、ほつつきあるく、散歩する）」だけで新たな文化価値を生み出した。そこには市民協働の精神があり、市民がまちを好きになる要素が埋め込まれていた。

### 観光の定義

三分の一は外からやってくる観光客のため。

三分の二は市民が自分たちのまちの魅力に気付くため。

町の人がよろこんでくれる、

「素通りする町からストーリーが生まれるまちへ」

というコンセプトは感動ものである。

まちづくりの今後の在り方は…

- \* 人の輪、出会い→力を合わせるができるか、その交流
- \* 公平性の得意不得意を得意分野を伸ばせる官民連携で実現
- \* ソーシャルキャピタルを駆使する力、応用力

が重要になる。社会共通資本を広く構築することが人口減少社会では必須。

人口は奪い合うのではなく、シェアする時代。少子高齢化は避けられない課題。人口を増やす事も考えなければならないが、少ない人口を分け合い、人材をシェアしてまちを面白くしようという考え方で地域活力を失わない方法を考えるべき。

・「関係人口」の重要性

東京で起こっている事→東京生まれ東京育ちのふるさと難民

近所に顔見知りがない、地域に愛着がもてないという事から、自由を求めて地方から都市へと流出することが増加。コロナ禍で加速。地域はこの現状を逆手に捉えるチャンス。地域資源を生かした持続可能性や循環を大事にすること。旅は物足りないが、簡単に移住もできない。だから、旅と移住の間がいいんだという考え方が普及し、これを関係人口と位置付ける。コロナ禍で働き方も大きく変わり、土地に縛られる必要がなくなったことから、固定的に考えなくていい人生やキャリアに応じて柔軟可変的に地域を往来することの可能性が広がった。

\* 短期的に来る人 観光交流

\* 長期的に住む人 移住・定住

\* その間に「関係人口」を入れ三本柱に

観光以上定住未満。特定の地域に継続的に関心を持ち関わるよそ者が地域を再発見し新しい風を吹かせるということ。

人口は残念ながら増えない。その中でどんな組織どんな社会をつくれば幸せに生きられるかのプラットフォームを作る。

・「よそ者」の強み。よそ者に何ができるのか

- \* 地域の再発見
- \* 誇りの涵養効果
- \* 知識移転効果
- \* 地域の変容を促進
- \* しがらみのない立場からの問題解決

\* 地域再生シビックプライド

これから伸びる地域とは…

\* 健康医療先進都市

\* 文化創造都市

\* 文化芸術活動が盛ん。産業振興や雇用の確保につなげる。

市民の健康寿命延伸が最大の課題

歩くこととそれを補完する公共交通の充実をまちづくりの中心にする。

・ 景観専門監制度の導入

「景観専門監がいるメリット」

\* 新しいライフスタイルの提案

\* 旅のサブスク

\* 誰も気づかなかった新たな価値の創造

公共の固い考え方に民間と市民の視点を丁寧に汲み上げる。バリアフリー動線を特別な動線にしない。ユニバーサルなものに「誰もが」メインで使える動線にする。何気ないところに、安価で価値を創造することは可能。つくる+つかう=長崎でしかできない「高次の欲求」に応える風景体験

・ 景観専門監とは…

\* インハウススーパーバイザー

\* 職員に伴奏する家庭教師

環境的資本、社会関係資本、人的資本、この三つが大事！

職員が輝く街づくりができているかが一番重要である。